また、高齢者も多いので、年長者の意見をよく聞き、加齢に対する思いやりを持ってフォローしながら活動しています。

しかし、どんなに気を付けていても、たまにクレームが来ます。その場合は誠意をもって対応し、同じことが起きないように皆で話し合います。

一番大事なことですが、衛生面には特に気を付けており、去年、保健所から食品衛生の表彰を受けました。

Q 地域における〝女性の活躍〟についてどのようにお考えですか？

私たちは法人の一組合員であり、一経営者であり、一従業員でもあります。無責任な行動や発言はしてはいけませんし、発言したことは責任を持って実行しなければいけません。

女性部の意見を理事会で発言し、それに対して出た意見を女性部でまた検討する、その仕組みの中で、女性は今まで知らなかった制度などを知ることができます。

未だに男尊女卑を感じることはありますが、地域において女性が発言でき、役割を発揮することで、女性の地位向上を進められるようになってきました。今まで男性だけが担ってきた農業委員に女性の登用も進むようになりました。農業のことを知らない男性が慣例的に委員となり会議に出席するよりは、詳しくやる気のある女性が委員となり意見を言うことも良いのではという考えです。

良い発案から良い商品やサービスが生まれます。私たちが加工品作りを通して豊かさと満足感を提供することで、逆にお客様からも豊かさと満足感を頂いています。これは高齢者にとっては生きがいにもなっています。

Q 今後、どのように活動を展開される予定ですか？

20年間、定期的に開催している「ルーラルフェスタ」は、リピーターのお客様が多く、大変な賑わいとなっていますので、新たな試みも考えています。

また、荒廃田に植えた〝こんにゃく玉〟や〝あずき〟のブランド化を進めるとともに、後継者育成として、若い女性がこの地域で働ける環境・場所づくりになるよう、洋焼菓子の商品開発を進めています。赤字覚悟で始めましたが、他の売上げでカバーをしたり、パッケージなどを工夫してコスト削減したり、手頃な値段で利益が出るようにしています。

現在は、会計・インターネットなど、それぞれ自分の得意分野で手助けしてくれる人も増え、一人ではできないことを皆で力を合わせて行っています。女性たちが元気だと地域は元気です。これからも女性がいきいきと活躍できる場所を作りながら、地域を潤わせていきたいと思います。

（取材：藤田）

周南学びの旅推進協議会
渋川をよくする会
会長　安永（やすなが） 芳江（よしえ）さん

山の資源を力に 女性が発信する“地域活性化”

Q 中山間の資源を活かして、体験型旅行の受け入れや誘致活動に取り組まれたきっかけ、理由などをお聞かせください。

長年活動していた生活改善実行グループの女性たちの「地域を良くしたい」という思いから、平成15年6月に「渋川をよくする会」を設立しました。

以前から「地区住民が主体となったむらづくり」を進めるために様々な活動をしてきましたが、高齢化が進み、後継ぎとなる若い世代が土地を離れるなど、地域の人口減少は日増しに深刻な問題となっていました。

危機感を感じた私たちは、渋川（周南市北部山間地域）の地域資源を活かし〝都市との交流〟を柱にした新たな取り組みを始めることになりました。都市との交流には、元々渋川に住んでいた後継ぎなどの若い世代も含み、交流をすることで彼らを呼び戻すきっかけを作れたら、という思いがありました。

都市の人たちとの交流を続けていくうち、「定年後はこの土地で暮らしたい」というIターンの方も出始め、私たち住民も、改めて自分たちの地域にある「自然」という資源に気付いていったのです。

そこで、渋川の良さをもっと知ってもらうためには、滞在してもらうのが良いと考え、「体験型旅行」の受け入れ事業に取り組み、周南地区の14地域で協議会を設立し、発起人として会長になりました。訪れた子どもたちには、自然を体験することで農山漁村の良さを知ってもらい、地域では高齢者が知識や技術を伝承することで、生きがいにもつながっています。

民泊だけではなく、長野山緑地公園にある宿泊施設を利用できることも取り組み易さの要因だと思います。

Q 活動されている中でのご苦労や喜びについて教えてください。

生活改善実行グループの積立金が100万円になったのをきっかけに、国や県の支援制度から無利子の借入金200万円を借りて、自分たちの集会所や加工所を作りました。土地の交渉や、建設許可などをグループ